

2025 年度

武蔵野学院大学大学院 武蔵野学院大学 武蔵野短期大学

学生満足度調査に関する報告書
(要約版)

2025 年 9 月

武蔵野学院大学 武蔵野短期大学

IR 委員会

※本報告書はホームページ上(学外公開用)の要約版です。自由記述欄に関する文言・図表など、個人情報保護および守秘義務の観点から、要約版では一部の内容を割愛しています。

はじめに

本学では、自己点検・評価の一環として、「学生満足度調査」を実施しています。このアンケートは、本学の設備・施設、教育、学生支援に対する学生の声を把握することを目的としており、結果の分析等から、より良い教育や学生支援を行うための組織的検証に活用することを目指しています。

学生満足度調査の実施に際し、IR 委員会では質問項目や実施時期等の検討を継続的に行っており、先生方や解答する学生に対してアンケート趣旨の徹底にも努めております。本学における学生満足度調査は、学生 462 名に対し、総回答数は 226 件となっております。また、自由記述への回答数は 57 件となっており、リアルな学生の声を把握する貴重な資料となります。この結果が各部・センター等で活用され、さらなる教育や学生支援等の改善に結びつけられることを期待しております。

なお、集計結果については本報告書にまとめ、一部を除き学外にも公表いたします。また、学生満足度調査の集計結果・回答内容は、調査実施の趣旨・目的以外に使用してはならず、業務上の関連部署には守秘義務が課されます。

本学の教職員の方々には今まで以上にご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。

武蔵野学院大学・武蔵野短期大学 IR 委員会委員長
野村 和

2025年度 学生満足度調査 結果報告書

1. 2025年度学生満足度調査 実施概要

- 1) 実施期間：2025年7月7日（月）8：30～2025年7月25日（金）19：00
- 2) 実施方法：Webシステム「Musashino Academic Station（以下、MAS）」を利用して回答。
- 4) 質問項目：選択式（5件法または6件法）による設問11問および自由記述式の設問1問
計12問（表1）。

2. 回答者の内訳

対象の学生数は462人で、うち大学・大学院：345人、短期大学：117人であった。回答者の総数は226人で、うち大学・大学院：117人（1年：35人、2年：17人、3年：38人、4年生以上：27人）、短期大学：109人（1年：56人、2年：53人）であった。回答率は大学・大学院33.9%、短大93.2%であった。大学院は母数が少ないことから、大学4年生以上に含めた。

3. 2025年度の変更点

2025年度は、主に以下の2点について変更を行った。そのため、過年度との数値比較においてはこの点を考慮する必要がある。

1) 実施期間

従来年度末（12月～1月）に実施していた学生満足度調査について、2025年度は前期終盤（7月）に前倒して実施した。これは、調査結果をよりタイムリーに各部署の対応や翌年度の施策立案（予算編成等）に活用することを目的としたものである。調査時期の変更により、回答内容に時期的・心理的な違いが生じる可能性もあることに留意する必要がある。

2) 質問項目

今年度は学生生活の変化や新たな課題への対応を目的として、設問項目の改訂を行った。特に、「建学の精神への理解」や「交流機会」、「喫煙場所の環境改善」など、近年の学内方針・施策に即した内容が盛り込まれた。

なお、設問11「喫煙場所の環境改善に関する評価」は、昨年度の自由記述で多数寄せられた声を受けて新設されたものであり、来年度以降は新たな改善事項に差し替える予定である。

3. 項目別評価

学生満足度調査は選択式の設問11問、自由記述式の設問1問の計12問で構成されている。選択式の問いについては、「a(5):そう思う」「b(4):ややそう思う」「c(3):どちらとも言えない」「d(2):あまりそう思わない」「e(1):そう思わない」の5件法による回答を依頼した。表1に選択式の設問内容と平均値を示した（数値は全て小数第3位を四捨五入）。

表 1. 学生満足度調査 選択式設問および各年度の平均値

設問	内容	大学 (2025)	短大 (2025)
1	学生生活に満足していますか。	4.07	4.63
2	建学の精神「他者理解」について理解していますか。	4.20	4.53
3	学内で他の学生と交流する機会がありますか。	3.54	3.54
4	授業内容には満足していますか。	4.16	4.43
5	資格や検定等の勉強に積極的に取り組んでいますか。	2.99	4.06
6	先生や職員の対応は親切だと思いますか。	4.60	4.83
7	大学は適切な学習環境・教育環境（教室等機材を含む）を提供していると思いますか。	4.30	4.62
8	キャリア教育・就職活動の支援は有効だと思いますか。	4.40	4.70
9	学友会、AMUSE、クラブ・同好会等の課外活動に積極的に参加していますか。	3.01	3.61
10	スクールバスを有効に利用していますか。（利用した学生のみ回答）	4.74	4.88
11	喫煙場所を移動したことで食堂付近の環境が改善されたと思いますか。	4.30	4.71
-	全体平均	4.04	4.42

※他、自由記述1問：その他、何かご意見等ありましたらお書きください。

学年間の比較

大学院生の人数を除き、比較を行った結果、大学では、設問 8 (Hedges' $g = 1.05$) は就職活動に関わる項目であることから、1~2年生の平均値は低く、3年生で上昇しそのまま維持されるといった差が見られた。短期大学では特筆すべき差は見られなかった。

4. 自由記述でみられた特徴

自由記述では、「何かご意見等ありましたらお書きください」の1問を設定した。回答について、「特になし」またはそれに類する回答を除き、大学・大学院 30 件(昨年度 36 件)件、短期大学 27 件(昨年度 26)、計 57 件 (昨年度 62 件) の回答が得られた (複数回答含む)。

得られた回答を頻出単語順に分類したところ、「バス (本数、時刻、授業など)」、の順で分類され、これらへの意見が大半であった。その他の意見は「食堂・購買に関するもの」、「設備」「その他」に大別された(表2)。昨年度多く見られた「喫煙所」に関する意見は大きく減少した。なお記載にあたり、意味を損ねない程度に一部の文言を編集して掲載した。

※自由記述欄の内容については、個人情報保護および守秘義務の観点から、要約版では傾向の記述に留め、具体的な回答および図表は割愛しております。

【特記事項】

・短期大学の回答率が 93.2%と高かった要因として、キャリア・ガイダンスの授業内で全員に回答を促したことが挙げられる。今後、大学・大学院においても、キャリア教育やゼミ等の授業時間内に同様の機会を設けることで、より多くの学生の声を収集できると考えられる。

・過去に要望が多かったトイレ環境の改善や喫煙所の場所に関する意見が大幅に減少したことは、実際の工事対応が成果を上げたものと捉えられる(表3)。こうした改善事例については、アンケート結果と対応内容を学生に明示することで、調査が学内改善に活用されていることを実感してもらえ、可能性が高まると考えられる。

表 3. 2024 年度から改善の傾向が見られた項目

項目	2024 年度	2025 年度	コメント
トイレ (改修など)	12 件	2 件	2024 年度に工事対応済み。
喫煙所 (移設など)	11 件	1 件	2025 年度前期までに移設したことによる成果と考えられる。
スクールバス (増便、時間調整など)	30 件	23 件	2024 年度末～2025 年度前期にかけて、電車の到着時刻に合わせたダイヤの見直しを行った。ただ、依然として改善の要望が多く、特に川越便・狭山便の運用への要望が多く見られた。

【今後に向けて】

・本調査の実施時期を前倒ししたことにより、調査結果を各部署の年度内対応や予算計画に反映させる可能性が高まった。今後もこの時期での実施を継続し、調査後の対応が十分に行える時間を確保していく。

・アンケート項目の一部を学内施策と連動させる設計としたことで、改善状況の把握や施策のモニタリングが可能となった。来年度以降も、自由記述や満足度の動向を踏まえながら、現状に即した項目の更新を行っていく。

・調査結果の学内共有については、IR 委員会から各部署・教職員会議等への報告に加え、学生にもフィードバックを行うことで、双方向性と信頼性を高めていきたい。

以上